

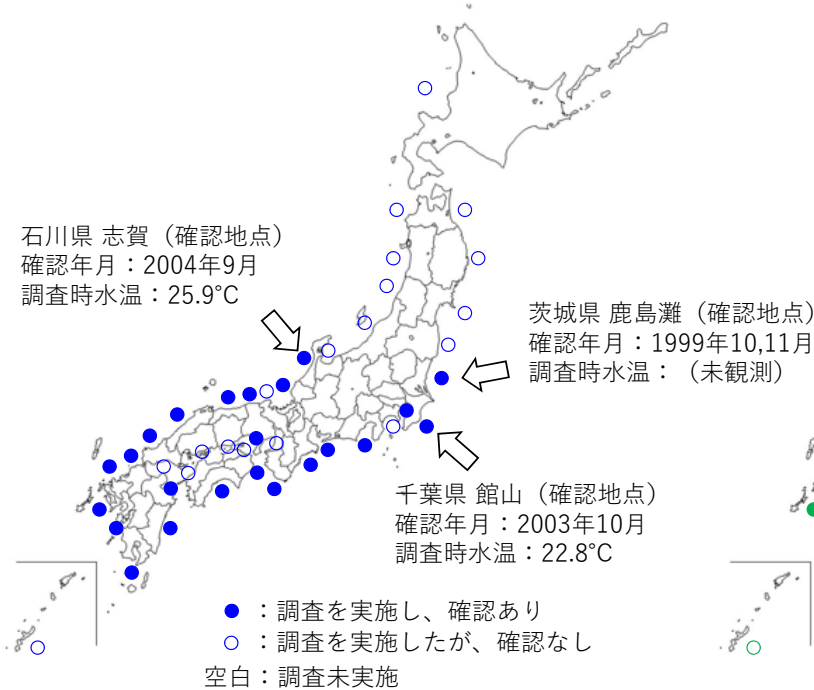
イサキの確認分布（1994～2025年）

— 魚礁効果調査結果（魚礁漁場専門部会整理） —

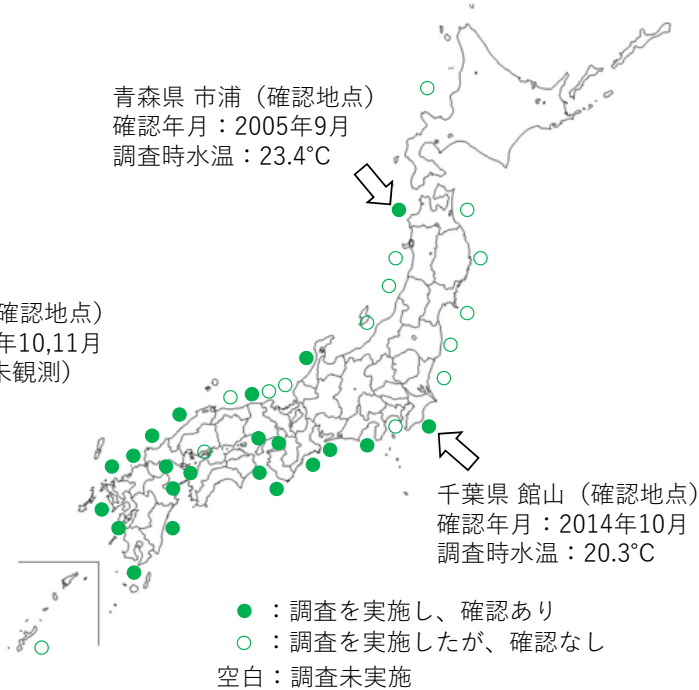
【調査概要】

本資料は、魚礁漁場専門部会所属の魚礁メーカー6社が過去約30年間に実施した魚礁効果調査1,144回分を集約・整理したものである。1994～2025年を3期に区分し、各期間における対象魚種の「1回以上の存在確認」を基準に、都道府県単位で分布状況を整理した。整理結果は日本地図上に示し、地理的北限については位置・調査年月・調査時水温を併記した。

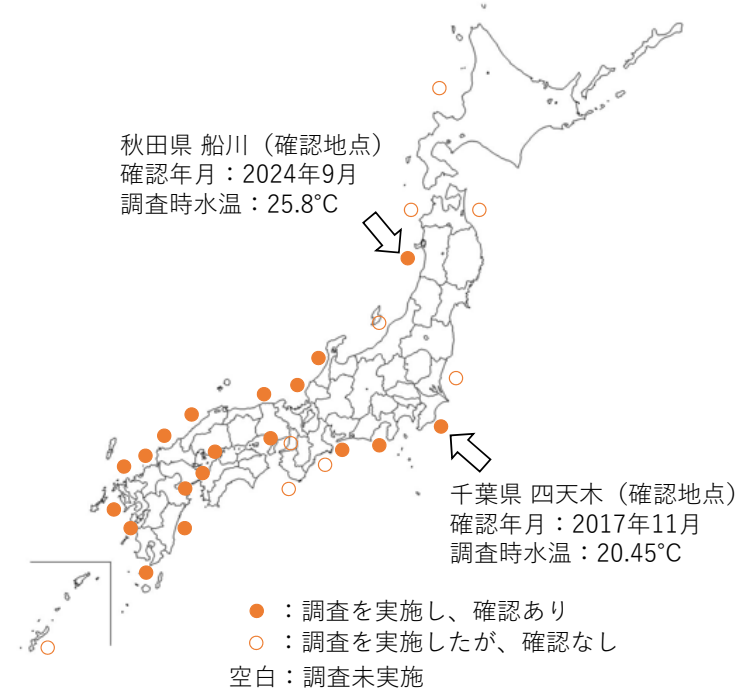
【1994～2004】



【2005～2014】



【2015～2025】



【考察】

南限域では確認が継続しており、北限側では確認範囲が徐々に拡大する傾向がみられる。特に日本海側では顕著である。これらの整理結果から、2005年以降、イサキの既存分布を維持したまま北方（日本海沿岸）に分布域が広がっていることが示唆される。また、日本海側では同時期の水温上昇が確認された一方、太平洋側では明瞭な傾向はみられなかった。

注記

・本整理は各期間内の存在確認（1回以上）に基づくものであり、個体数・頻度・資源量の増減を直接示すものではない。

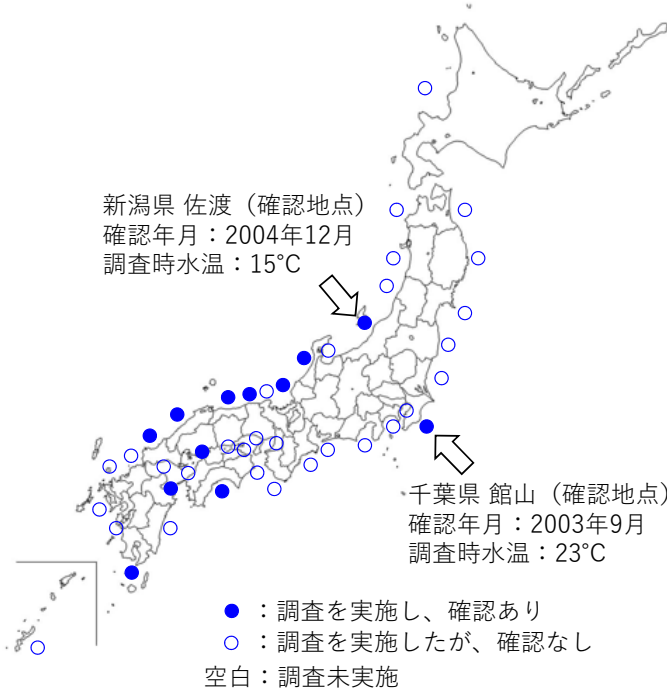
キジハタの確認分布（1994～2025年）

— 魚礁効果調査結果（魚礁漁場専門部会整理） —

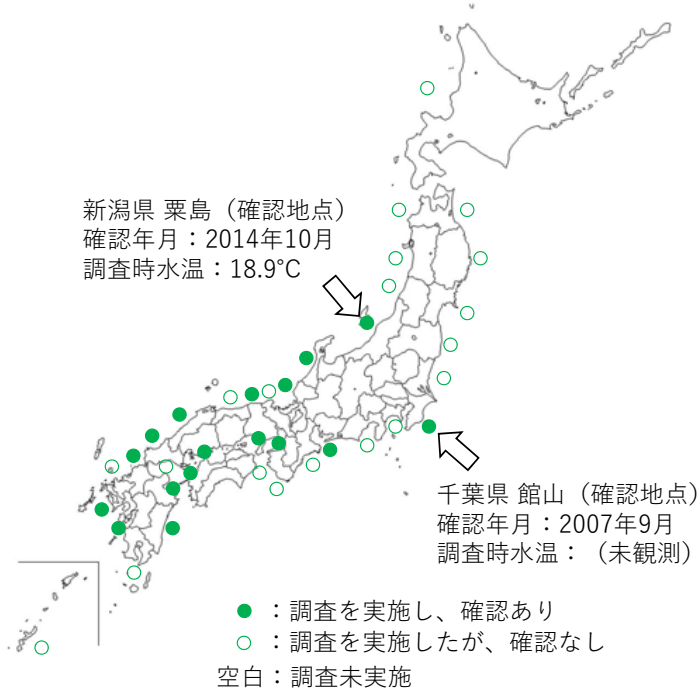
【調査概要】

本資料は、魚礁漁場専門部会所属の魚礁メーカー6社が過去約30年間に実施した魚礁効果調査1,144回分を集約・整理したものである。1994～2025年を3期に区分し、各期間における対象魚種の「1回以上の存在確認」を基準に、都道府県単位で分布状況を整理した。整理結果は日本地図上に示し、地理的北限については位置・調査年月・調査時水温を併記した。

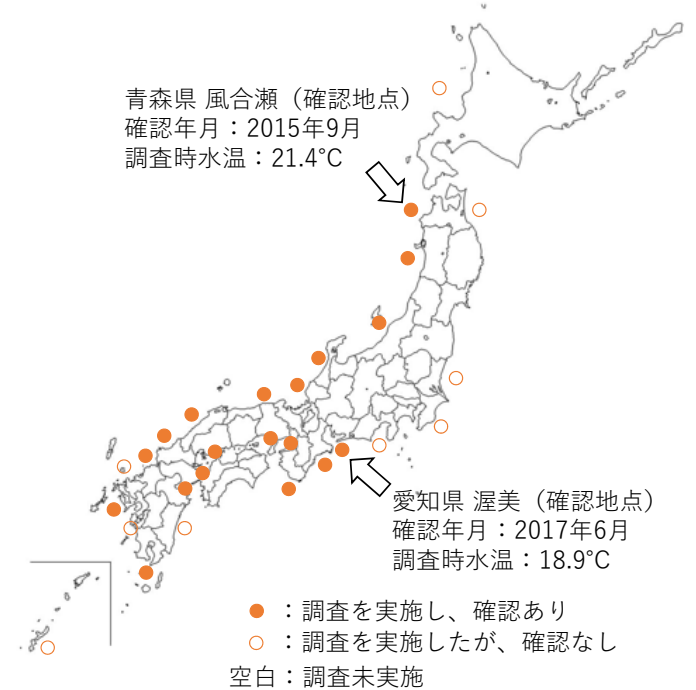
【1994～2004】



【2005～2014】



【2015～2025】



【考察】

確認県数は1994～2004年で12県、2005～2014年で17県、2015～2025年で19県へ増加しており、既存分布を維持したまま分布域が長期的に拡大してきた可能性がある。特に北側（日本海沿岸）での確認の増加は、キジハタの魚礁利用可能域の拡大を示唆している。

注記

・本整理は各期間内の存在確認（1回以上）に基づくものであり、個体数・頻度・資源量の増減を直接示すものではない。